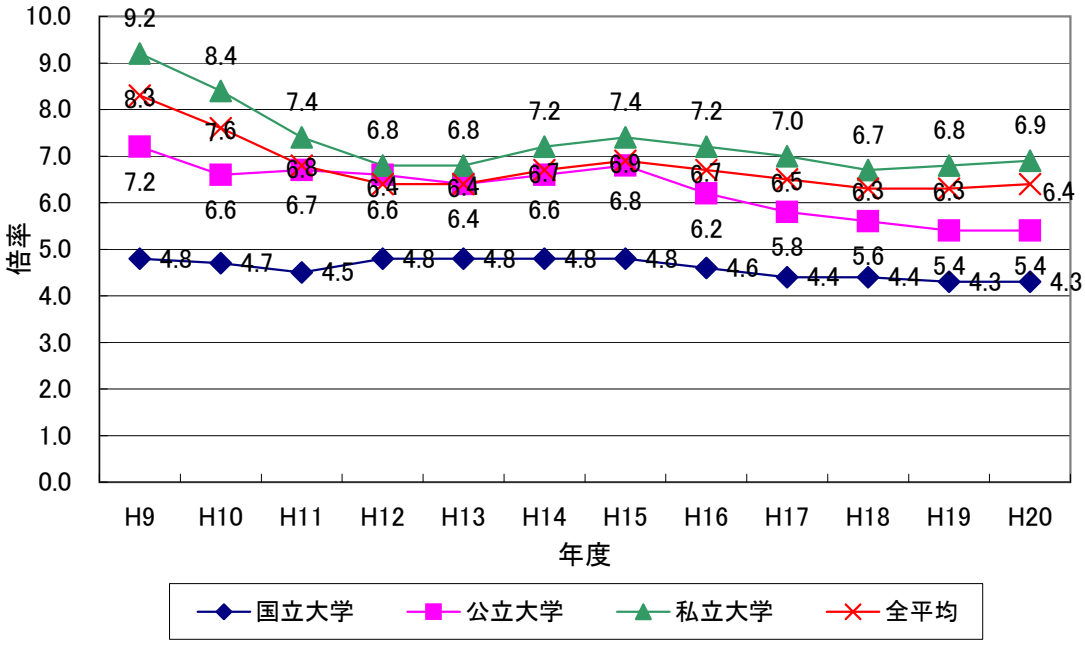
２－２０　最近の入学定員と入学者数の推移

・４年制大学の入学定員は増加。短大は大幅減少。
・志願倍率は減少傾向。

年度	大学		短期大学		合計	
	入学定員	入学者	入学定員	入学者	入学定員	入学者
平成　9	505,961	586,688	191,325	207,546	697,286	794,234
平成　10	515,735	590,743	184,580	191,430	700,315	782,173
平成　11	524,807	589,559	176,280	168,973	701,087	758,532
平成　12	535,445	599,655	152,071	141,491	687,516	741,146
平成　13	539,370	603,953	140,908	130,246	680,278	734,199
平成　14	543,319	609,337	126,590	121,441	669,909	730,778
平成　15	543,818	604,785	116,433	113,029	660,251	717,814
平成　16	545,261	598,331	105,746	106,204	651,007	704,535
平成　17	551,775	603,760	99,761	99,431	651,536	703,191
平成　18	561,959	603,054	95,866	90,740	657,825	693,794
平成　19	567,123	613,613	92,342	84,596	659,465	698,209
平成　20	570,250	607,159	87,577	77,339	657,827	684,498

出典：全国大学一覧、全国短期大学一覧、学校基本調査

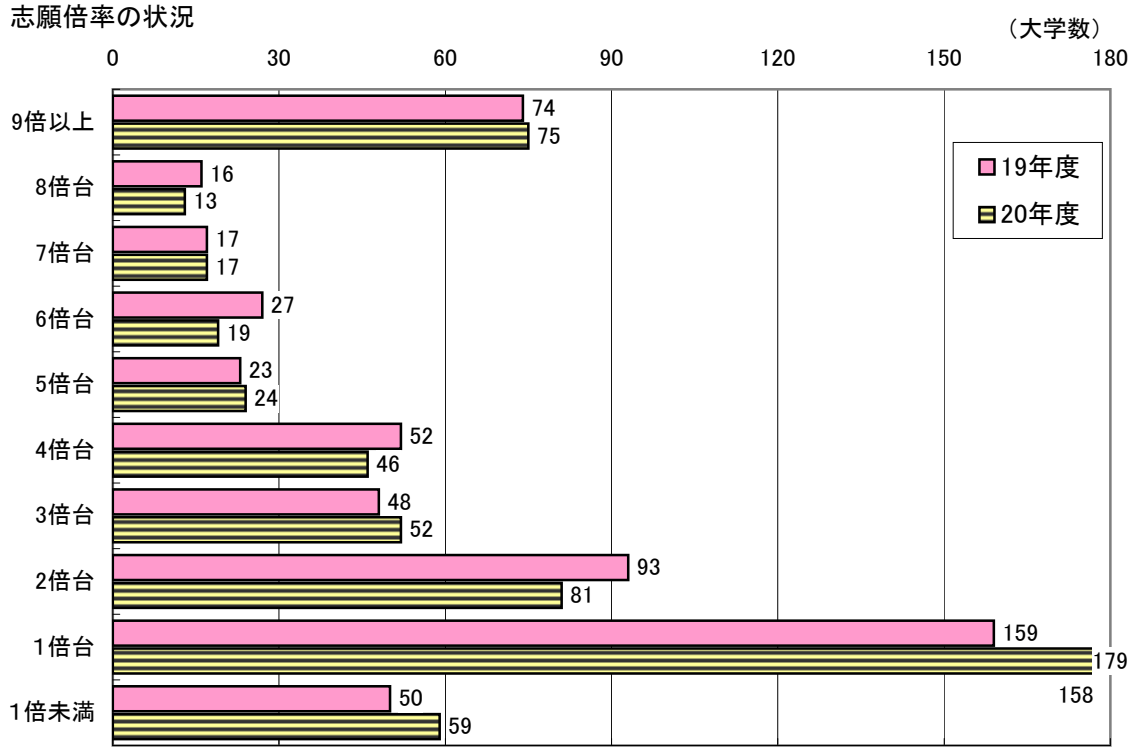
２－２１　志願倍率の推移



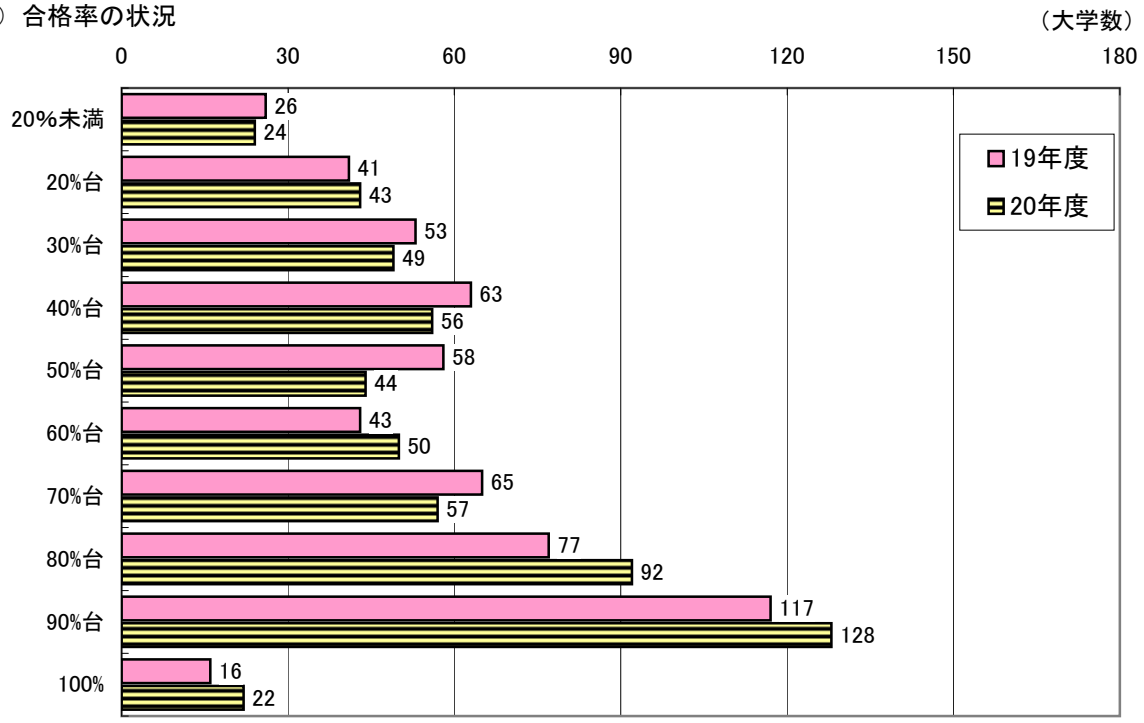
出典：文部科学省大学入試室調べ

２－２２　私立大学の志願倍率･合格率・入学定員充足の状況

① 志願倍率の状況



② 合格率の状況



③ 入学定員充足の状況

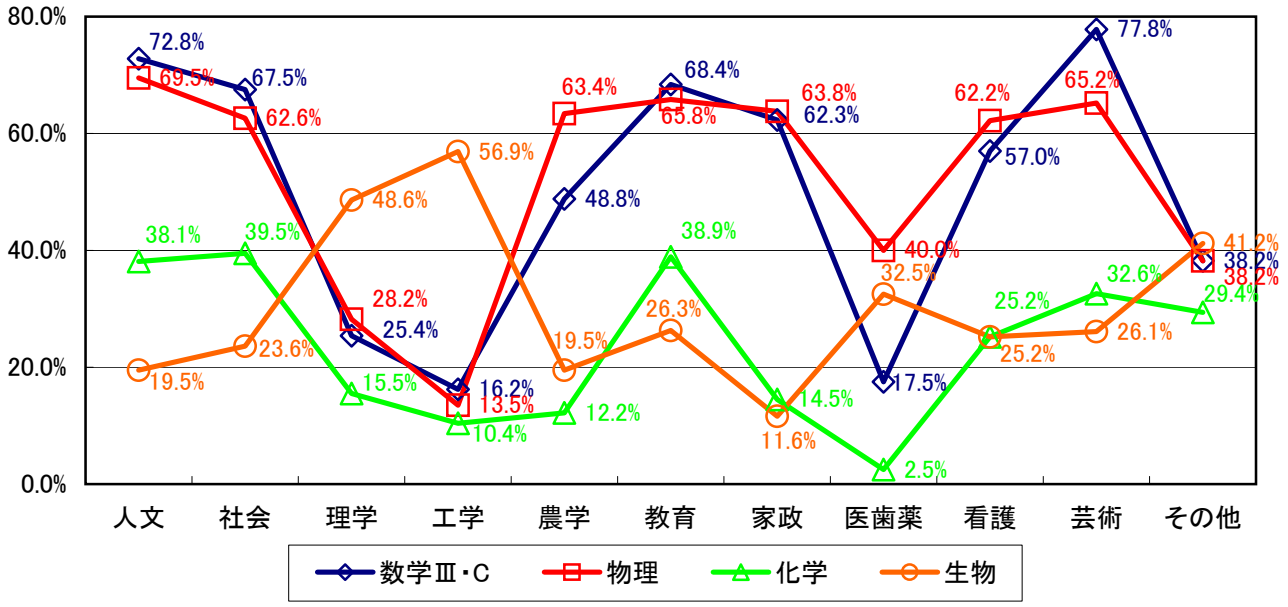
平成20年度　大学数565　入学定員未充足の大学266　→　未充足割合47．1％

（出典）日本私立学校振興･共済事業団調べ

２－31　高校での学習状況と大学生の意識

（1）高校での学習状況

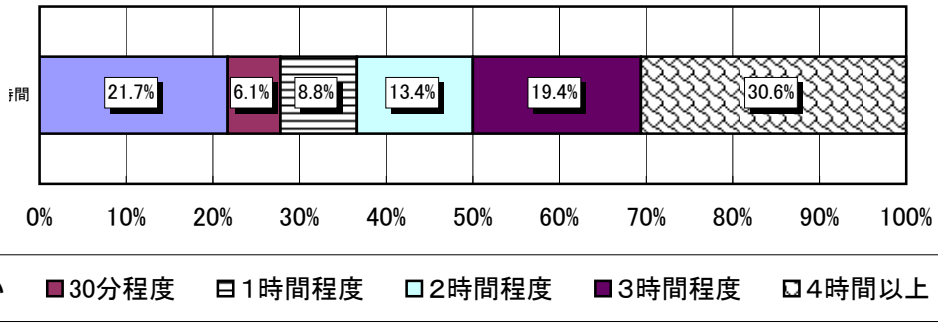
高校で履修していない科目（学部別の履修していない学生の割合）



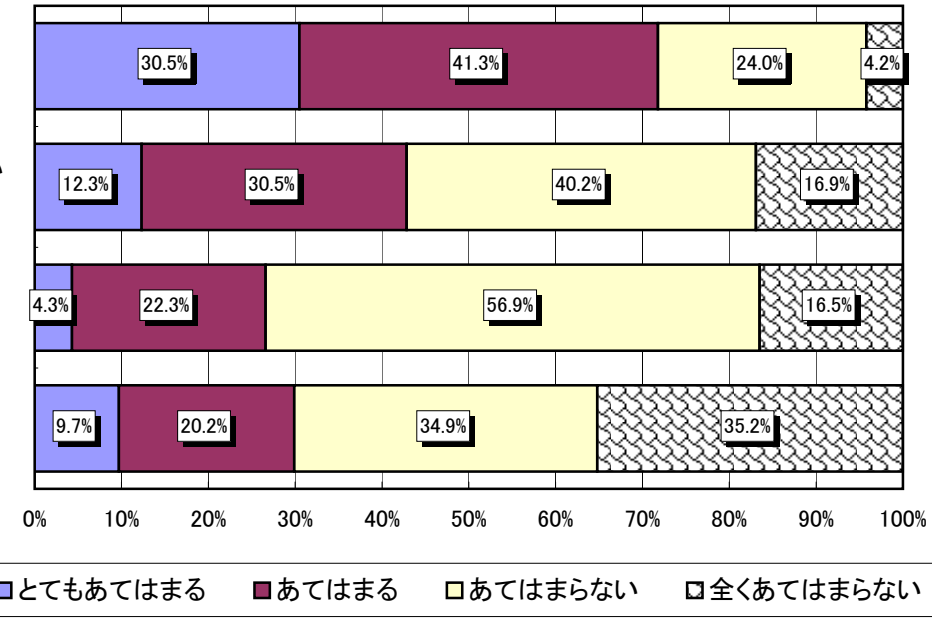
（2）大学生の意識

【入学前】

高校3年生の秋の平日の勉強時間（※大学進学を希望する者）

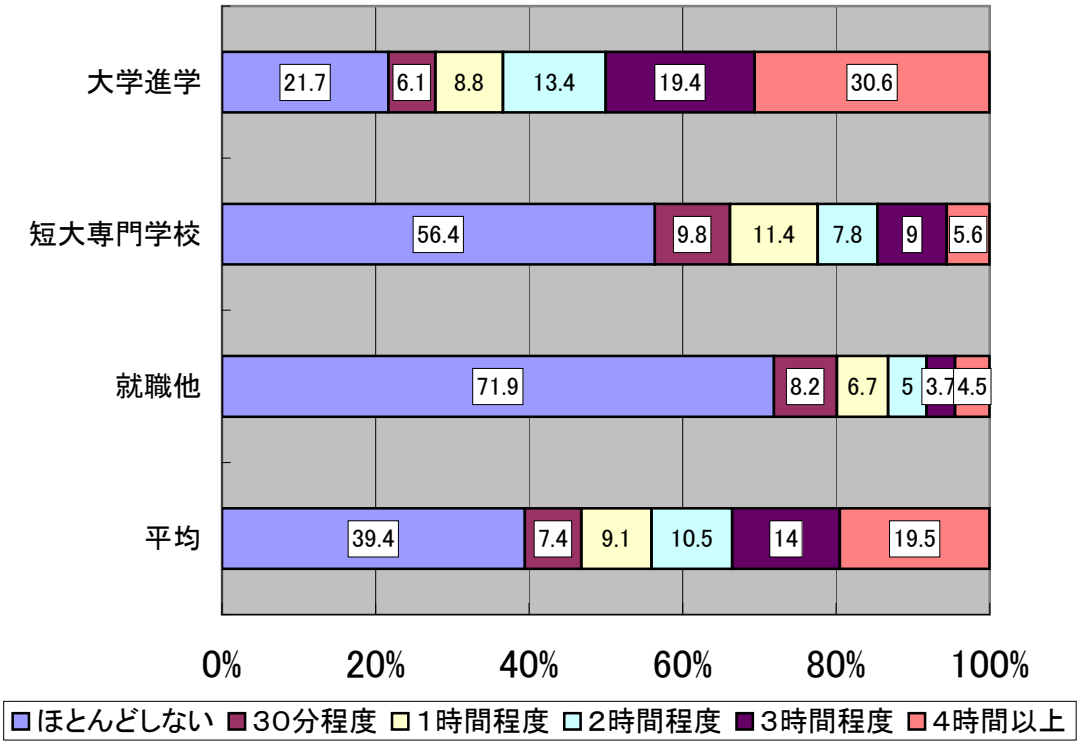


【入学後】



※「高校生の進路追跡調査【第1次報告】」（東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター　2007年9月）より作成

２－３２　進路別高校３年生の勉強時間

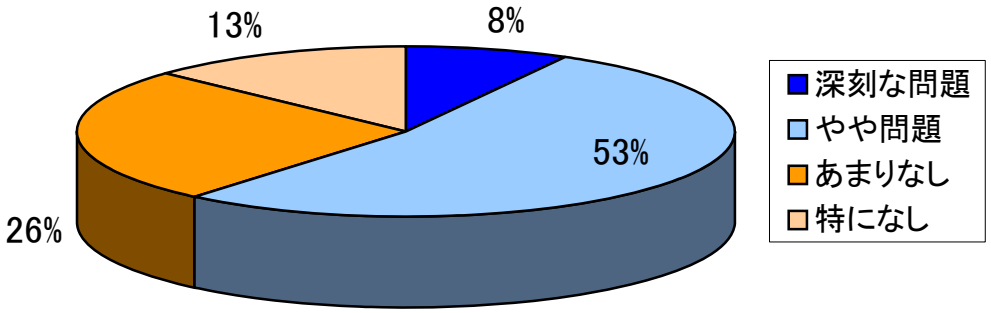


【調査概要】平成17年に高校3年生であった4，000人を全国からサンプル調査

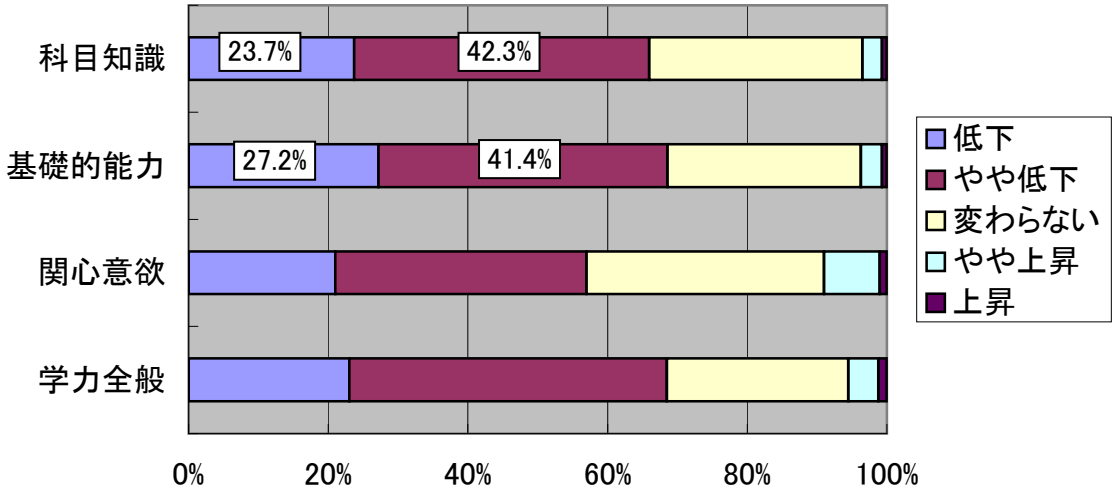
（出典）東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター編
「高校生の進路についての調査　第1次報告書」
東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター（2007）

２－３３　大学生の学力低下に関する教員の意識

Ｑ：先生の所属される大学の学部においては、学生の学力低下が問題となっていますか。



Ｑ：先生の所属されている学部・学科の新入生の学力は、ここ数年どのような傾向にありますか。



○　学力低下の具体的内容

1位 「主体性の欠如」
2位 「論理的思考力欠如」
3位 「日本語の基礎学力の低さ」

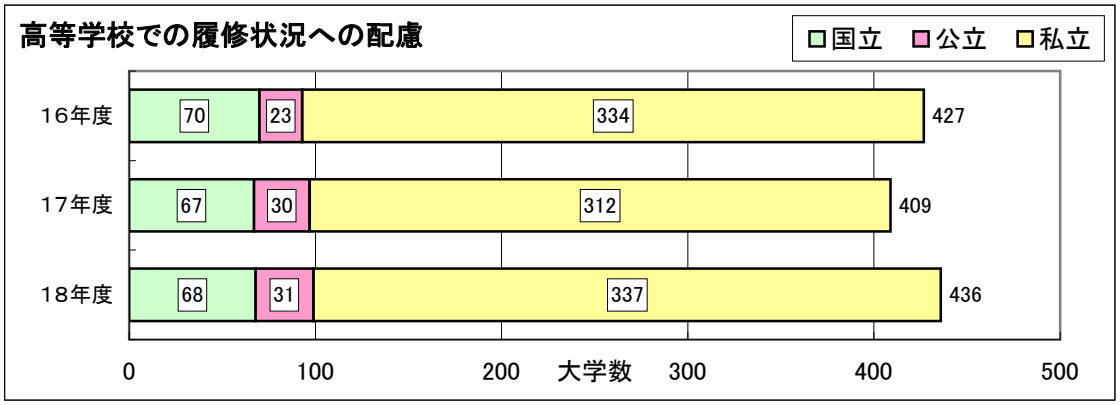
【選択項目】
1，主体性　2，論理的思考　3，基礎科目の理解
4，外国語　5，大学での学習に必要な基礎科目の履修　6，日本語　7，学習方法　8，他人の考えの理解
9，数量分析

【調査概要】2003年12月から2004年1月にかけて全国国公私立408大学・600学部の教員約25，000名を対象にアンケート調査を実施：回収数は11，481名

（出典）日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B「大学生の学習意欲と学力低下に関する実証的研究（研究代表者：柳井晴夫）」（2006）

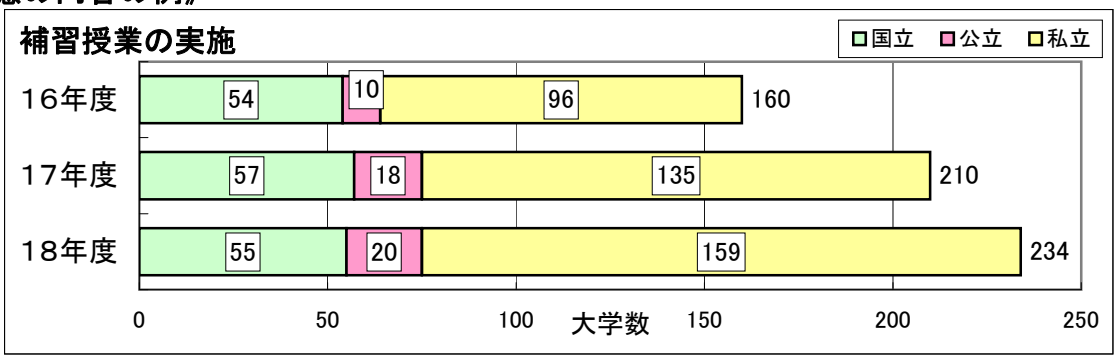
２－３４　高等学校での履修状況への配慮

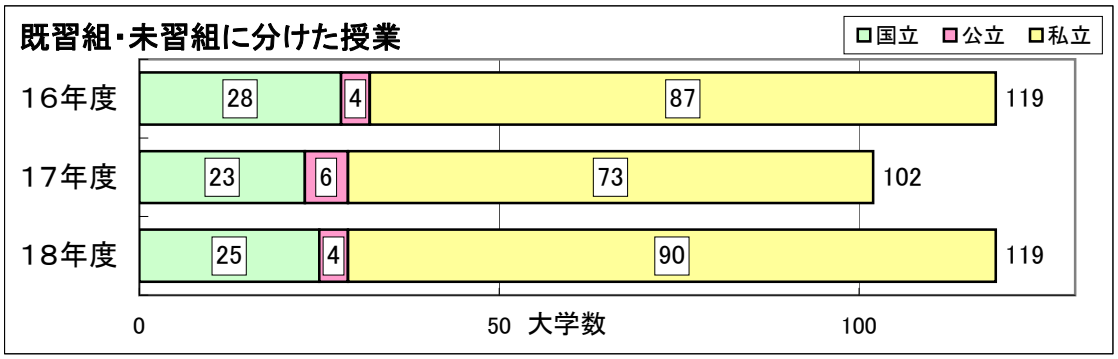
平成１８年度においては国公私立４３６大学（約６１％）が、専門高校出身者や帰国子女、高等学校で当該科目を選択履修していない者などに対して、補習授業を実施することや、既習組・未習組に分けた授業を実施することなど、高等学校等での履修の状況に配慮した取組を実施している。

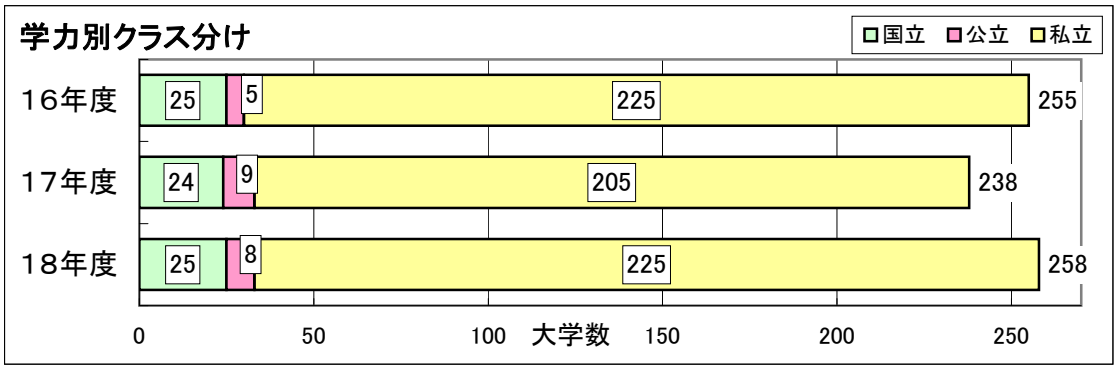


※　大学院大学２１大学（国立４大学、公立２大学、私立１５大学）は対象としない。

《配慮の内容の例》







（出典）文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」（2008）

２－３５　初年次教育の重要度

	重要である（%）
レポート・論文の書き方などの文章作法	63.7
コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術	55.3
プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法	51.1
学問や大学教育全般に対する動機付け	50.2
論理的思考や問題発見・解決能力の向上	49.5
図書館の利用・文献検索の方法	47.6
読解・文献購読の方法	41.2
将来の職業生活や進路選択に対する動機付け・方向付け	31.0
社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観の育成	28.9
情報収集や資料整理の方法	28.5
受講態度や礼儀・マナーの涵養	27.7
学生の自信・自己肯定感の向上	27.7
大学内の教育資源（図書館を除く施設・設備・人員等）の活用方法	25.2
フィールド・ワークや調査・実験の方法	20.4
高校で学習する教科の補習教育	19.0
学生生活における時間管理や学習習慣の組織化	18.6
ノートの取り方	17.8
大学への帰属意識の向上	13.4
協調性の養成	12.7
集中力や記憶力の習得方法	8.2

【調査概要】
Ｎ＝636学部　2001年10月～11月調査（学部長対象）

（出典）私学高等教育研究叢書「私立大学における一年次教育の実際」（2005）